

令和5年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立東小路小学校
令和6年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【最重要目標 1】においては、

- ・ 週 1 回の職員ミーティング（毎週水曜日）で児童理解が共有でき、子どもたちを見守る体制づくりができた。今年度はミーティングの内容を充実させていく。
- ・ 体験活動を重視する方向は変わらず、全学年において発達段階を考慮しながら実施していく。
- ・ 従来の行事や活動を新しい形に進化させながら、より地域に開かれた教育活動になるよう取り組みを進める。
- ・ 人権教育の実践を通じて、自尊感情を高める取り組みを進めた。今年度も引き続き「自尊感情を高める実践」を重ねていく。

【最重要目標 2】においては、

- ・ 研究主題の達成に向けて、算数科において指導法の工夫や研究を教員全体で進めることができた。引き続き子どもたちが「できた」「わかった」と実感でき、自信をもって算数科の学習に取り組めるよう研究を推進していく。
- ・ 令和 4 年度は、国際クラブ発表会が開催でき、子どもたちの自尊感情を高めることができた。今年度も外国人教育について計画的に実践し、継続して活動を進めていく。
- ・ 基本的な生活習慣である「歯みがき」指導は健康教育部を中心に児童の意欲を向上させることができた。今年度は、基本的な生活習慣について取り組んでいく。

【最重要目標 3】においては、

- ・ ICT機器の授業での活用は進んできたので、今後は、一定のきまりを定めたうえで家庭学習用としても一人一台学習者用端末を積極的に使用していく。
- ・ スマートスクールの「心の天気」を毎日入力するようにし、児童一人一人の気持ちの変化を教職員で共有して、児童理解の参考にする。
- ・ 教員のニーズに応じたメンター研修を計画的に実施することができた。今年度は、今まで取り組んだ研修を振り返り、年間計画を立てて実施する。
- ・ 学校閉庁日の設定日数を増やしたり、定時退勤の日を設定したりして、超過勤務時間の短縮が図れた。今年度も、継続して取り組んでいく。
- ・ 図書委員会と学校図書館補助員を中心にして、読書週間等の取り組みを充実することで、児童の貸し出し冊数を増やすことができた。e-Libraryを年間を通して活用し、さらに本に親しむ機会を増加させる。
- ・ 学校だよりや学校ホームページによる発信を継続していき、ともに学校をつくる意識を高めていく。

今年度は、ようやくコロナ禍の影響が薄れ、通常実施してきた行事等に取り組むことができる環境が整いつつある。また、児童一人一台学習者用端末を効果的に活用する教育環境をさらに推進していくかなければならない。さらに、教職員の働き方改革を推進し、教員の超過勤務時間の減少をめざしながら、急速に進む若手教員増加に伴う人材の育成にも力を注げるよう運営に関する計画を策定し、実現をめざしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、小学校85%以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- ・毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を、毎年、前年度より減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、92%以上にする。
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和3年度より3%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より2ポイント増加させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」との項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より2ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を40%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。
- ・ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉序日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- ・教員の勤務時間の上限に関する基準1(月間45時間未満)を満たす教職員の割合を70%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和3年度より10冊以上増加させる。
- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より3ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・令和5年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- ・令和5年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度より減少させる。
- ・令和5年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を、前年度より減少させる。
- ・令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、95%以上にする。
- ・令和5年度末の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的に回答する割合を80%以上にする。
- ・令和5年度末の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的に回答する割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、40%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を65%以上にする。

学校園の年度目標

- ・令和5年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、前年度より2ポイント増加させる。
- ・令和5年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ・令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より2ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合
- ・令和5年度末の児童アンケートにおいて、「自分の思いや考えをすすんで表現したり発表したりする」の子どもの肯定的な回答の割合を81%以上にする。
- ・令和5年度末の児童アンケートにおいて、「失敗してもくじけず、何度も挑戦している」の子どもの肯定的に回答する割合を80%以上にする。
- ・令和5年度末の児童アンケートで、「早寝・早起きをして規則正しい生活をしている」の子どもの肯定的な回答の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和5年度末の校内調査の「毎日学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、前年度より10ポイント以上増加させる。
- ・ゆとりの日の設定を、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、冬季休業期間中は3日以上設定する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（月間45時間未満）を満たす教職員の割合を60%以上にする。

学校園の年度目標

- ・令和5年度末の校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、前年度より2冊増加させる。
- ・令和5年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を90%以上にする。
- ・児童が、一人一台学習者用端末の「心の天気」を毎日入力したり、学習の中で日常的に活用したりするとともに、双方向性通信にも取り組む。
- ・ゆとりの日の設定を、週1回以上設定し、退勤時刻を18時にする。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、冬季休業期間中は3日以上設定する。
- ・教員の勤務時間の上限に関する基準1（月間45時間未満）を満たす教職員の割合を60%以上にする。
- ・令和5年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。
- ・令和5年度末の保護者アンケートにおいて「学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等で学校や子どもの様子をよくわかるようにしている」の肯定的な回答の割合を93%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

「全市共通目標」である3つの最重要目標の達成に向けて、教職員がひとつになって取り組みを進めることができた。

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】においては、

- ・隔週で放課後に職員ミーティングを実施し、児童理解が共有でき、子どもたちを見守る体制づくりができた。次年度は、「いいとこみつけ」機能を有効に利用したい。
- ・体験活動を重視する方向は変わらず、次年度にも全学年において実施していく。
- ・今年度も、行事や活動の見直しを行い、より実態に沿った形に進化させながら、より地域に開かれた教育活動になるよう取り組みを進める。
- ・人権教育の実践を通じて、自尊感情を高める取り組みを進めた。次年度も引き続き「自尊感情を高める実践」を重ねていく。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】においては、

- ・研究主題の達成に向けて、算数科において指導法の工夫や研究を教員全体で進めることができた。引き続き子どもたちが「できた」「わかった」と実感でき、自信をもって算数科の学習に取り組めるよう研究を推進していく。
- ・全学年で課内実践を実施し、国際クラブ発表会の内容を充実させることができ、多文化共生教育を推進することができた。次年度も外国人教育について計画的に実践し、継続して活動を進めていく。
- ・基本的な生活習慣である「早寝・早起き」について保護者・児童に啓発することができた。次年度は、食育についても取り上げ、引き続き基本的な生活習慣の向上に努める。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】においては、

- ・ICT機器の授業での活用はさらに進んでいる。持ち帰りの双方向通信についても、接続テストを実施し、家庭学習用として一人一台学習者用端末を使用することができた。今後も、さらに活用していく。
 - ・スマートスクールの「心の天気」を毎日入力することが習慣化してきた。今後は、習慣化を定着させて児童理解を進めていく。
 - ・教員のニーズに応じたメンター研修が実施できた。次年度は、より充実した研修内容になるようにしていく。
 - ・学校閉庁日の設定日数を増やしたり、定時退勤の日を設定したりして、超過勤務時間の短縮が図れた。次年度は、時差勤務制度が導入され、会議のもち方などについてさらに働き方改革を推進する。
 - ・図書委員会と学校図書館補助員を中心にして、読書週間等の取り組みを充実することで、児童の貸し出し冊数を増やすことができた。次年度は、図書館開放の回数を増やしたり、読書週間のあり方を工夫したりするなど、本に親しむ機会を増加させる。
 - ・学校ホームページやミマモルメによる情報発信を活発に行い、ペーパーレス化に取り組みながら、保護者ともに学校をつくる意識を高めていく。
- 次年度は、年間指導時数を見直すことで、さらなる教職員の働き方改革をめざし、教員の超過勤務時間の減少に努め、急速に進む若手教員増加に伴う人材の育成にも力を注げるよう運営に関する計画を策定し、実現をめざしていきたい。

(様式2)

大阪市立東小路小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、85%以上にする。 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。 令和5年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度より減少させる。 令和5年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を、前年度より減少させる。 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、95%以上にする。 令和5年度末の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的に回答する割合を80%以上にする。 令和5年度末の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的に回答する割合を90%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、最新の児童情報を共有する。 児童が安心できる居場所を学校につくるため、全ての教職員で見守る体制をつくる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 隔週で実施する職員ミーティングや校務支援PCの連絡掲示板などを活用して情報共有をし、全教職員で課題に対応する。 毎学期「いじめアンケート」を実施し、いじめを早期に発見し、いじめを未然に防げるようとする。 <p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災教育の年間計画を立て、計画的に実施する。 	B A

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（火災、地震・津波、台風、不審者対応）を年間4回実施する。 ・区役所や消防署などの外部機関と連携し、防災学習に取り組む。また、災害時児童引き渡し訓練を実施する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動を通じて、「自分も人も大切にする」「自分でしっかり考えて行動する」ことを意識し、子どもの自尊感情を高める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的な回答の割合を80%以上にする。 ・年度末の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的な回答の割合を90%以上にする。 ・年度末の児童アンケートにおいて、「自分でしっかり考えて行動する」の子どもの肯定的な回答の割合を87%以上にする。 ・令和5年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答の割合を95%以上にする。 	A
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた「体験活動」を通じてキャリア教育を充実させ、情操豊かな心を育てる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年「あべのハルカス」4年「ごみ焼却場」「防災センター」5年「新聞社」6年「ピースおおさか」「キッザニア」などでの体験や見学を通して、それぞれの学習内容の理解を深める。 ・2年「まちたんけん」3年「スーパーマーケット見学」4年「水道教室」6年「租税教室」や「トップアスリート夢授業」など、様々な仕事について知る機会をつくり、将来について夢をもてるようとする。 ・全学年が芸術鑑賞を通して、本物のすばらしさを体感する。 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際クラブの活動を含めて、外国人教育を各学年で取り組み、歴史や文化についての話を聞き、人権を尊重する教育を推進し深めていく。 ・総合的な学習の時間と他教科との関連を図り、多文化共生教育を推進する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5時間以上の学習の機会を持ち外国の歴史や文化を理解し、人権の大切さを理解する。 	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月、保護者が学校を訪問する機会を設定し、開かれた学校をめざす。また、地域と児童が交流する場を設定する。 ・生野区の施策の「生きるチカラまなびサポート事業」を活用して、児童が自分の将来を前向きに考える環境づくりを促進する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフを通して、4・5年の児童と地域の方の交流を図る。 ・年度末の保護者アンケートにおいて「学校は、地域の人々とのふれあい等、体験活動を通して、心豊かな子どもが育つよう努めている」の肯定的な回答を85%以上にする。 ・全学年において「生きるチカラまなびサポート事業」を活用し、体験活動を通じて学習の深化を図る。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 「いじめアンケート」は毎学期定期的に実施し、問題の早期発見に努めた。また、「心の天気」を日々確認することで、児童の気持ちの変化を察知し、対応することができた。 「いいとこみつけ」については、校内研修を実施し、運用を促進することができた。児童のがんばりを記録することで教職員で児童の様子を共有化することにつながった。 課題である全児童確認ボードのデータ化はまだ進んでいない。
② 区役所、消防署、地域と連携し、防災学習・児童引き渡し訓練を実施するなど、計画通りに年間4回の避難訓練を実施した。さらに、防犯訓練で不審者への対応についても職員研修を実施し、意識を高めることができた。 保護者への連絡メール「ミマモルメ」の機能を有効活用し、保護者との連絡をより綿密に行うことができるようになった。
③ 指標であるいずれのアンケート項目においても、児童のアンケート結果は肯定的な回答が多くみられた。1学期の「なかまの木」の取り組みをはじめ、すべての学級で人権学習を計画的に実施してきた成果であると考える。また、すべての委員会で委員会発表を行ったことで、高学年の児童の自己肯定感の向上につながり、低・中学年の児童にとっても、高学年になったときの目標ができたと感じる。
④ 体験活動や芸術鑑賞、または劇場での鑑賞など本物を通して、児童らが大きな発見や喜び、または興味が広がるなどの感性に響く体感活動を味わうことができた。さらに、キャリア教育については、児童の興味・関心が広がり、さまざまな職業や生き方を知る機会にもつながっており、充実することができた。
⑤ 国際クラブの活動を含め、外国人教育を進め、年度末には外国人教育実践報告会を開き、他学年の実践を共有できた。さらに、教科指導の中に外国の文化についての調べ学習を積極的に取り入れるなど、多文化共生教育を推進することができた。
⑥ 校区内の地域とのつながりは、地域行事が復活し、グラウンドゴルフを通して児童との交流が図られ、校区の幼稚園との交流も実施できた。また、生野区の「生きるチカラ学びサポート事業」を継続することで児童が自分の将来を考える一つの大重要なきっかけになった。

次年度への改善点

① 「いいとこみつけ」の活用を全学級で本格的に進め、情報の把握をより迅速、正確にまとめ、全教職員が共通理解できるようにする。全児童確認ボードの役割を SKIP の「出席簿」に移行する。そのため、担任に限らず確認した職員が入力し、午前 9 時 30 分の段階で全学級の入力を一旦完了させる。
② 土曜日実施の防災学習では、区内の NPO 法人 BASE544 に協力していただき、より充実した内容にする。教職員の危機管理意識を高めるためにも、避難訓練をする状況を授業中だけに限定しない等、さまざまな場面での想定を取り入れていく。
③ 日々の生活の中での児童のがんばりや他人への思いやりある行動について意図的に取り上げ、自らや友だちの言動を振り返り、がんばりに気づき合える学級集団作りに継続して取り組む。「よいところ」という文言から消極的に考えてしまう児童がいることが考えられるので、「もちあじ」や「自分らしさ」など補足する表現を追記して自己評価できるようにする。

- ④ 同様の出前授業を複数学年で実施することがあった。指導者がねらいを明確にして授業実践していくために、各学年で体験していくことを決めておいて、系統立てて実施する。また、体験したことで児童がどのように変容したかを検証していくことが大切である。
- ⑤ 発達段階に応じた実践内容を考え、各教科とも関連づけながら年間指導計画を策定する。地域の特性として、韓国・朝鮮の文化などについて深く理解できるように教材の整備を進める。
- ⑥ 運動会や作品展などの学校行事の際には、地域の方にも来ていただき、たくさんの感想をいただきなど交流が進んだ。また、グラウンドゴルフを通じて児童と直接交流する場を設けたり、校区の幼稚園との交流を実施したりできた。今後は、見守り隊の方への感謝を伝える場の設定や、委員会活動などを通じてポスターを作成し、広く地域に周知を行い、多くの地域の方々と交流ができるような具体的な取り組みが必要である。

(様式2)

大阪市立東小路小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】	
<p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、40%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を65%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、前年度より2ポイント増加させる。 ・令和5年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ・令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より2ポイント向上させる。※全国平均を1とした時の割合 ・令和5年度末の児童アンケートにおいて、「自分の思いや考えをすすんで表現したり発表したりする」の子どもの肯定的な回答の割合を81%以上にする。 ・令和5年度末の児童アンケートにおいて、「失敗してもくじけず、何度も挑戦している」の子どもの肯定的に回答する割合を80%以上にする。 ・令和5年度末の児童アンケートで、「早寝・早起きをして規則正しい生活をしている」の子どもの肯定的な回答の割合を85%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の研究教科を算数科とし、全学年で「わかる」「できる」「楽しい」を研究主題とし、算数科の基礎・基本の定着を図る。 ・算数科をはじめ、授業や様々な教育活動で、一人ひとりが自分の考えを発表したり、他の人の考えを聞いたりして、意見を交流する時間を設定する。(ペア学習・グループ学習など) ・第4教育ブロック事業で日本漢字検定を3学年で実施する。 	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会を伴う研修会を年間 6 回以上実施する。 ・朝の学習で毎週火・金に計算タイムを設定し、基礎・基本のさらなる定着をめざす。 ・令和 5 年度の小学校学力経年調査における算数科の標準化得点を、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・令和 5 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ・日本漢字検定を実施し、合格率を 90% 以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や様々な教育活動で、「自分の思いや考えをすすんで表現したり発表したりする」「失敗してもくじけず、何度も挑戦している」ことを意識して学習意欲を高める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童アンケートにおいて、「自分の思いや考えをすすんで表現したり発表したりする」の子どもの肯定的な回答の割合を 81% 以上にする。 ・年度末の児童アンケートにおいて、「失敗してもくじけず、何度も挑戦している」の子どもの肯定的な回答の割合を 80% 以上にする。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業や体育的行事等で、児童の体力の向上を図り、特に持久力を高める。 ・「2 つのことを同時に」「左右別の動き」「脳の活性化」を取り入れた運動（シナプソロジー）を校内で共有し、運動意欲を高める活動を実践する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度の校内の運動能力調査において、3 年～6 年の 20m シャトルランの記録を前年度より 2 ポイント向上させる。 ・シナプソロジー実施にあって、各学級で週に 1・2 回程度継続して取り組む。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけるよう指導し、家庭にも啓発を行う。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度末の児童アンケートで、「早寝・早起きをして規則正しい生活をしている」の子どもの肯定的な回答の割合を 85% 以上にする。 	C
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 研究主題に向けての指導案の検討や授業研究会、研修などを積み重ね、各学年とも目標の達成に努めることができた。漢字検定は、目標が明確で自ら意欲をもって学習する機会となった。</p> <p>② 各教科の学習の中で、ペア交流などグループで話し合う場面を取り入れることにより、自分の考えを自信をもって発表する児童が増えた。しかし、「すすんで」発表できるまでには至っていない。</p> <p>③ 持久力を高めていくことを意識した運動を積極的に取り入れた。その中でも、なわとびは年間を通じて、遊びの中でも楽しみながら取り組んでいた。特に、なわとび週間で「なわとびカード」を配付することにより、意欲的に取り組む姿が見られた。このよう取り組みの効果は、運動能力テストのシャトルランにおける結果の伸びにおいても見られた。シナプソロジーは、児童集会で取り組むことができたが、習慣として行うようになるまでには至っていない。</p>	

④ 「早寝早起き」の重要性と生活習慣の改善策について、学校保健委員会のテーマとして取り上げ、その後、保健室前に常掲することで児童の意識を高めることができた。保護者には、早寝早起きの利点を保健だよりで啓発しており、次年度以降も継続していく。しかし、就寝時刻は、それぞれの家庭の事情もあり、一律的には難しい。

次年度への改善点

- ① 学習の理解度や既習事項の定着の個人差が大きく、個別の支援が課題であり、補助教材の工夫など、個別の学力向上に向けて引き続き取り組む。
- ② 全校朝会などの場で、委員会の月目標などを定期的に児童が発表する機会をつくる。また、各学級での取り組みにおいては、自分の思いや考えを安心して伝えられる気持ちになるような雰囲気づくりに努める。
- ③ 今年度の新体力テストの結果から、引き続き持久力の向上に努める。また、長座体前屈の結果にも課題が見られるため、柔軟性を向上させる運動を意図的に取り入れる。シナプソロジーは朝会や集会で定期的に実施していく。シャトルランを5月の新体力テスト時と11月頃に二回目を実施し、記録を比較できるようにする。
- ④ 「生活チェック」で状況を把握しつつ、懇談会等で保護者に啓発する。特に「早起き」に重点を置き、登校時間を守れるように手立てを考える。新たに「食育」に関する取り組みを指標に入れる。

(様式2)

大阪市立東小路小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度末の校内調査の「毎日学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、前年度より10ポイント以上増加させる。 ゆとりの日の設定を、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、冬季休業期間中は3日以上設定する。 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（月間45時間未満）を満たす教職員の割合を60%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度末の校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、前年度より2冊増加させる。 令和5年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を90%以上にする。（89%、92.7%） 児童が、一人一台学習者用端末の「心の天気」を毎日入力したり、学習の中で日常的に活用したりするとともに、双方向性通信にも取り組む。 ゆとりの日の設定を、週1回以上設定し、退勤時刻を18時にする。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、冬季休業期間中は3日以上設定する。 教員の勤務時間の上限に関する基準1（月間45時間未満）を満たす教職員の割合を60%以上にする。 令和5年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。 令和5年度末の保護者アンケートにおいて「学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等で学校や子どもの様子をよくわかるようにしている」の肯定的な回答の割合を93%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達段階や学習場面等により、必要に応じてデジタル教材を活用するなど、デジタルと紙の教材それぞれの良さを生かしながら適切に組み合わせて教育効果を高める。 ICTを活用することで児童の状態や日々の生活の状況を可視化させ、児童理解を深め、全教職員で共有する。 	B

指標

- ・学習者用端末を活用した学習（デジタルドリル navima や家庭学習含む）を日々実施し、令和5年度末の校内調査の「毎日学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、前年度より10ポイント以上増加させる。
- ・各学年の児童の実態に応じて、プログラミング学習に取り組み、プログラミングに対する意欲を伸ばす。
- ・スクールライフ機能を活用し、児童が毎日「心の天気」を入力したり、ミマモルメの「欠席遅刻」や「連絡ノート」を日々確認したりすることで、児童の体調や気持ちについて共通理解し、早期に対応できるようとする。

取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた、キャリアステージに対応した研修を体系的・計画的に実施する。
- ・教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができる環境の実現をめざす。

指標

B

- ・メンターを中心として教員の授業力を向上させる取り組みを定期的に行う。
- ・ゆとりの日の設定を、週1回以上設定し、退勤時刻を18時にする。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上（5日）、冬季休業期間中は3日以上（3日）設定する。
- ・教員の勤務時間の上限に関する基準1（月間45時間未満）を満たす教職員の割合を60%以上にする。

取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】

- ・毎週水曜日の朝に「読書タイム」を設定し、読書に親しむ。

指標

B

- ・令和5年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、75%以上にする。
- ・school e-library の月間閲覧回数（PV数）を月間で学級平均100回以上にする。

取組内容④【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】

- ・学校運営や日々の教育活動について保護者や地域に対して学校ホームページを毎日更新するなど積極的な情報発信により開かれた学校づくりに取り組む。

指標

B

- ・年度末の保護者アンケートにおいて「学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等で学校や子どもの様子をよくわかるようにしている」の肯定的な回答の割合を93%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 「心の天気」の活用は、どの学級でも進んでおり、児童の心情の変化を可視化できている。ICT機器の活用は、写真や動画を取り込みプレゼンテーションを作成したり、teams や navima を使って双方向での取り組みをしたり活用の幅はかなり広がっている。プログラミング学習では、低学年を中心にスクラッチでアニメーションを作ったり、教育センターの貸出制度でロボットを貸与され、大いに活用できた。また、プログラミングの出前授業を受けて、プログラミングが身近な生活に役立っていることが理解でき、学習の意欲につながった。

- ② メンター研修は、後半は学校行事など日程に余裕がなく、あまり実施できなかつたが、スクールアドバイザーの定期訪問による若手教員への授業の指導講評により、指導力の向上が見られた。
- ゆとりの日にはできるだけ会議を入れずに確実に実施することができた。また、長期休業中の閉序日の日数を増やすなど、時間外勤務時間の減少に努めた結果、基準1の目標割合を達成することができた。
- 配布物のペーパーレス化は、徐々に進めているが、まだ限定的である。職員会議の時間は、審議事項を重点的に扱うことで少し短縮できた。連絡掲示板の活用が進み、後日に再確認できる利点もある。さらに活用を進めたい。
- ③ school e-library の活用を進め、学校司書と連携した毎学期設定している読書週間の取り組みなどで児童の読書への関心は一定の水準は保たれている。しかし、保護者アンケートによる家庭で見る子どもの読書への関心度は、児童本人のアンケート結果をはるかに下回っている。
- ④ 学校ホームページや学校だより、ミマモルメによるアンケートや緊急メール、学年だより、学級だより、保健だよりや栄養だよりなど、様々な側面からの発信により、学校の取り組みや児童の活動を具体的に伝えることができた。

次年度への改善点

- ① プログラミング学習について、校内で系統化した年間の計画などを作成して6年間を見通した学年ごとの到達度を示し、児童のスキルアップにつなげていく。
「心の天気」は学校生活での心情を推察できるように、登校時よりも、下校時に必ず行うようとする。
- ② 若手教員を中心とした研修・自己研鑽は必要なことであるが、ニーズに沿ったものになるよう精査をする。
校時表を見直したり、会議の日に6时限目の授業をカットしたりするなど、会議の開始時刻を早め、会議の進行を効率的に行うように努める。今後も、連絡掲示板を積極的に活用していく。
- ③ 図書委員会の児童に協力を得て、雨の日の業間と昼休みに図書館開放を実施し、学校図書館の利用率を上げる。
- ④ 学校ホームページの内容を充実させ、配布物を電子化して配信することを推進していく。保護者メール「ミマモルメ」の機能をさらに有効活用していく。